

① 申請者	南砺市	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B <u>C</u> D E	
③ タイトル				
宮大工の鑿 ^{のみ} 一丁から生まれた木彫刻美術館・井波				
④ ストーリーの概要（200字程度）				
<p>瑞泉寺^{ずいせんじ}の再建に端を発し、宮大工の鑿^{のみ}一丁から生まれた華麗にして豪壮な井波彫刻と、その木彫刻職人たちが造りあげたまち井波。彫刻工房と町家が軒を連ねる石畳の通りには、木槌の音が響き、木々の薫りが漂う。通りには至るところに七福神や十二支などの木彫刻が飾られ、まちはさながらに木彫刻の美術館である。春には井波彫刻で飾られた曳山や屋台、獅子舞がまちを練り歩き、地域の安泰や五穀豊穡を祈る。地域の暮らしに根づく井波彫刻は、その高い技術力や芸術性を広く全国から認められ、今や日本の木彫刻文化の護り手となっている。</p>				
				
木彫刻の工房と町家が並ぶ石畳の八日町通り		井波彫刻発祥の場所・瑞泉寺		
				
		受け継がれる高度な木彫刻の技		
⑤ 担当者連絡先				
担当者氏名	南砺市ブランド戦略部 文化・世界遺産課 主査 井並幹隆			
電 話	0763-23-2014	FAX	0763-62-2112	
E-mail	Inami.mikio@city.nanto.lg.jp			
住 所	富山県南砺市城端 1046			

南砺市の位置図等



拡大図 I (平野部)

拡大図 II (五箇山)

アクセスMAP



高速道路の所要時間

・東京 (練馬 I.C) から	約 5 時間 30 分 (上越・富山経由)	関越・上信越・北陸・東海北陸自動車道 → 南砺
・名古屋 (名古屋 I.C) から	約 2 時間 30 分	名神・東海北陸自動車道 → 南砺
・大阪 (吹田 I.C) から	約 3 時間 30 分 (福井・金沢経由)	名神・北陸・東海北陸自動車道 → 南砺
・金沢 (金沢東 I.C) から	約 30 分	北陸・東海北陸自動車道 → 南砺

鉄道 (JR) の所要時間

・東京から	約 4 時間 30 分	北陸新幹線 (はくたか) → 新高岡駅 → 城端駅
・大阪から	約 5 時間	北陸本線 (特急) → 金沢駅 → 高岡駅 → 城端駅
・名古屋から	約 5 時間	東海道新幹線 → 北陸本線 (特急) → 金沢駅 → 高岡駅 → 城端駅
・金沢から	約 1 時間 30 分	北陸新幹線 (はくたか、つるぎ) → 新高岡駅 → 城端駅
・富山から	約 1 時間 30 分	北陸新幹線 (はくたか、つるぎ) or 北陸本線 → 新高岡駅 → 城端駅

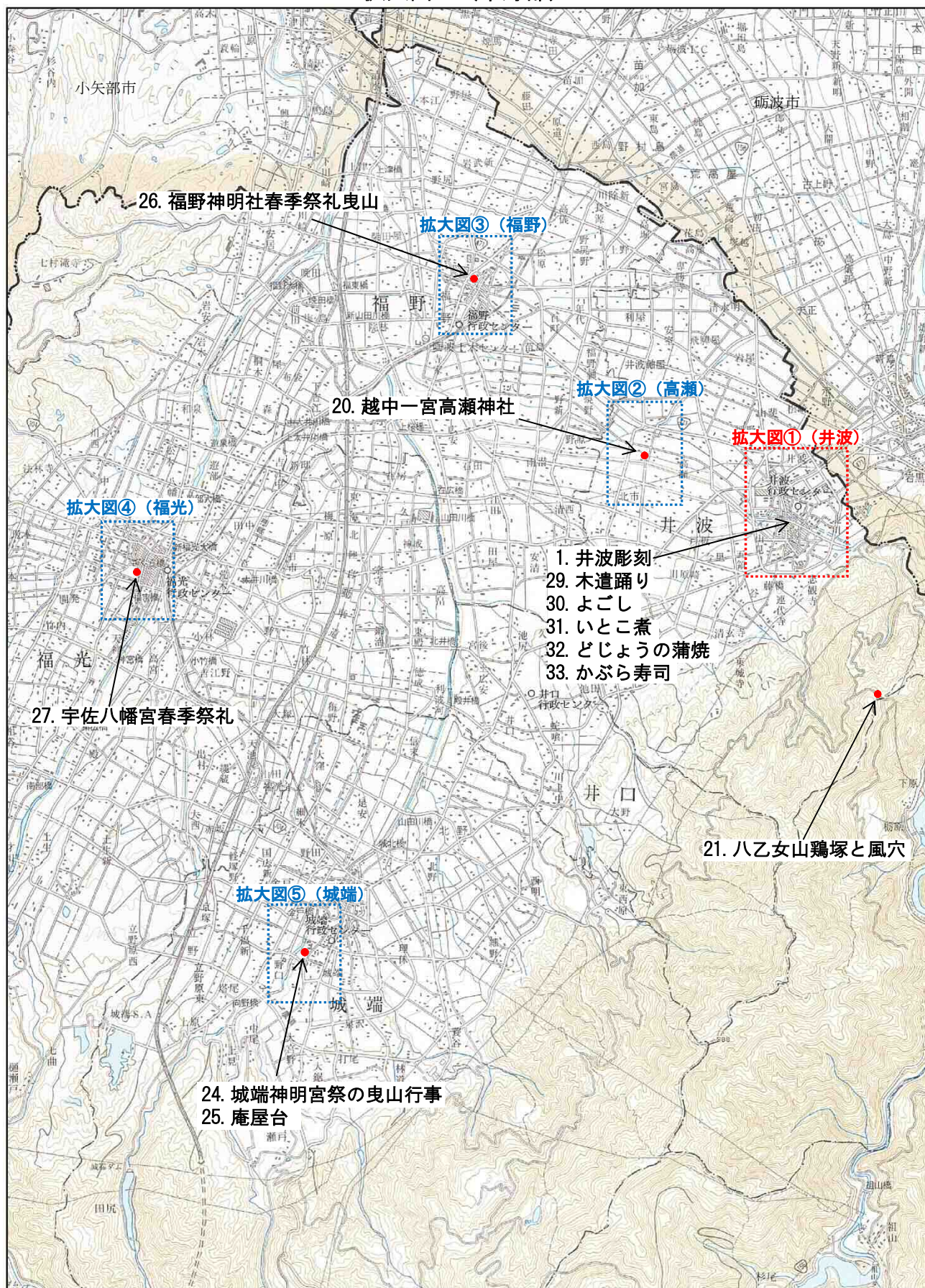
飛行機・レンタカーの所要時間

・羽田から 約 1 時間	→ 富山きときと空港から 約 40 分	国道 41 号・北陸・東海北陸自動車道 → 南砺
・新千歳から 約 1 時間 30 分	→ 富山きときと空港から 約 40 分	国道 41 号・北陸・東海北陸自動車道 → 南砺
・羽田から 約 1 時間	→ 小松空港から 約 1 時間	北陸・東海北陸自動車道 → 南砺

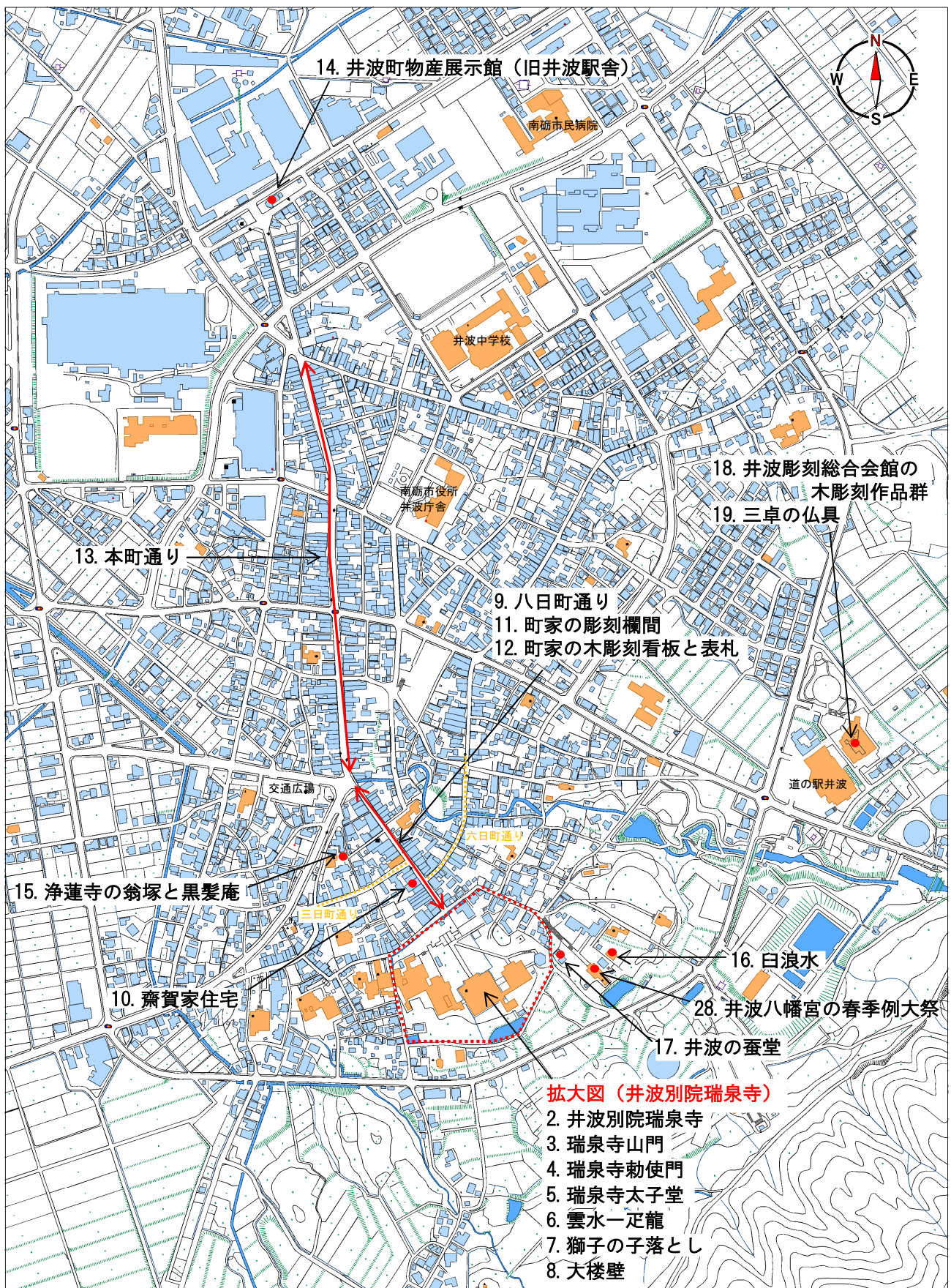
南砺への
アクセス

構成文化財の位置図（地図等）

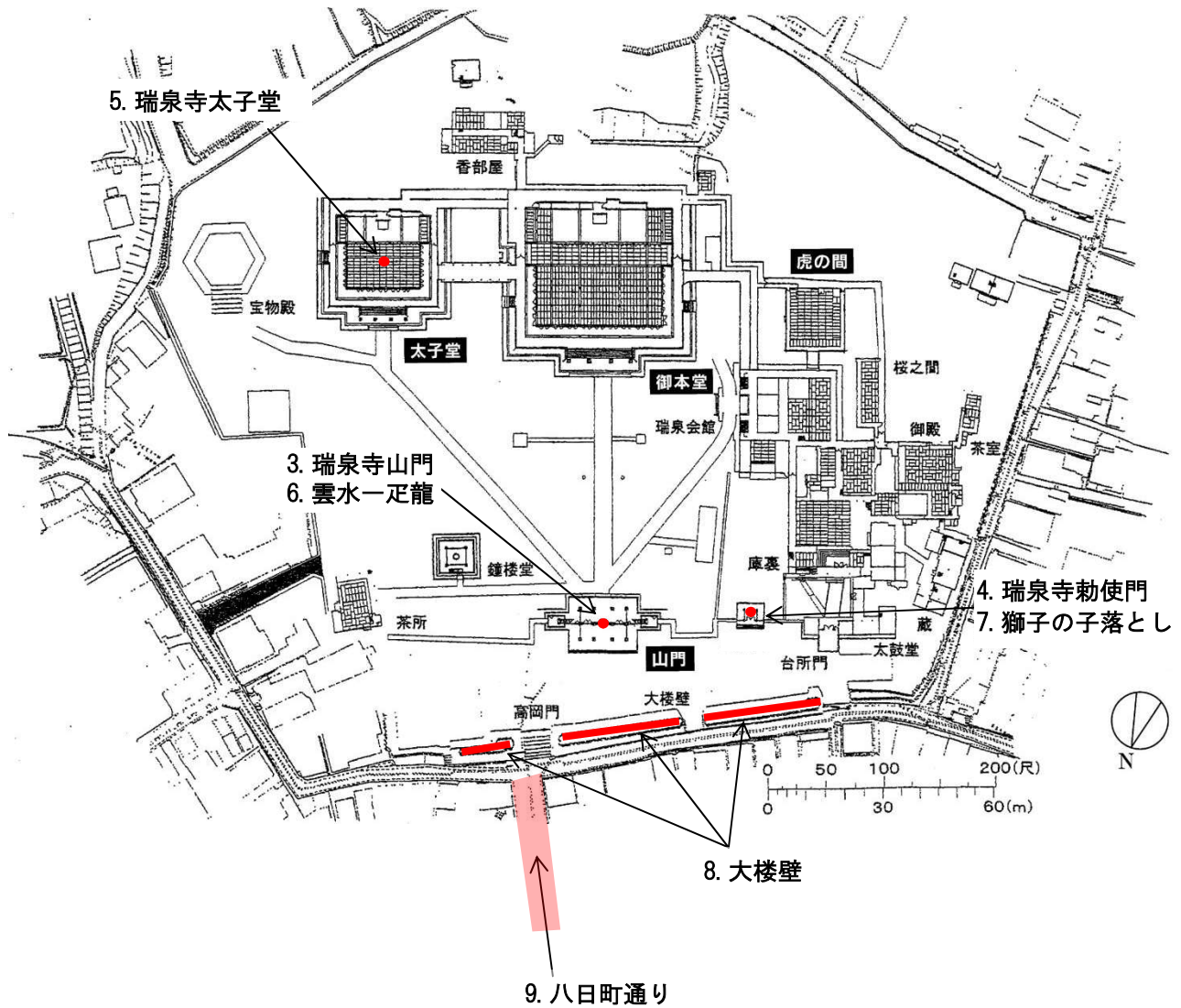
拡大図Ⅰ（平野部）



拡大図① (井波)



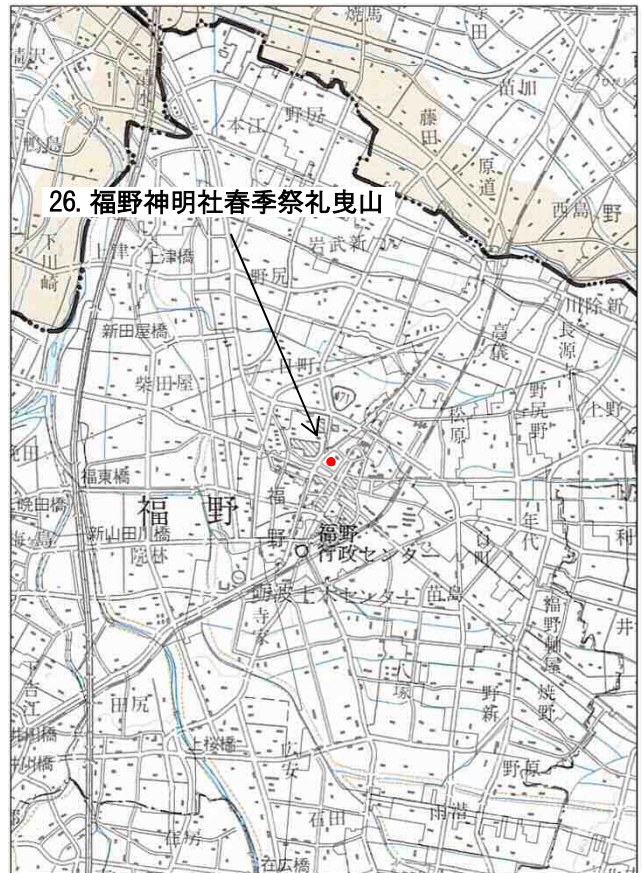
拡大図 (井波別院瑞泉寺)



拡大図② (高瀬)



拡大図③ (福野)



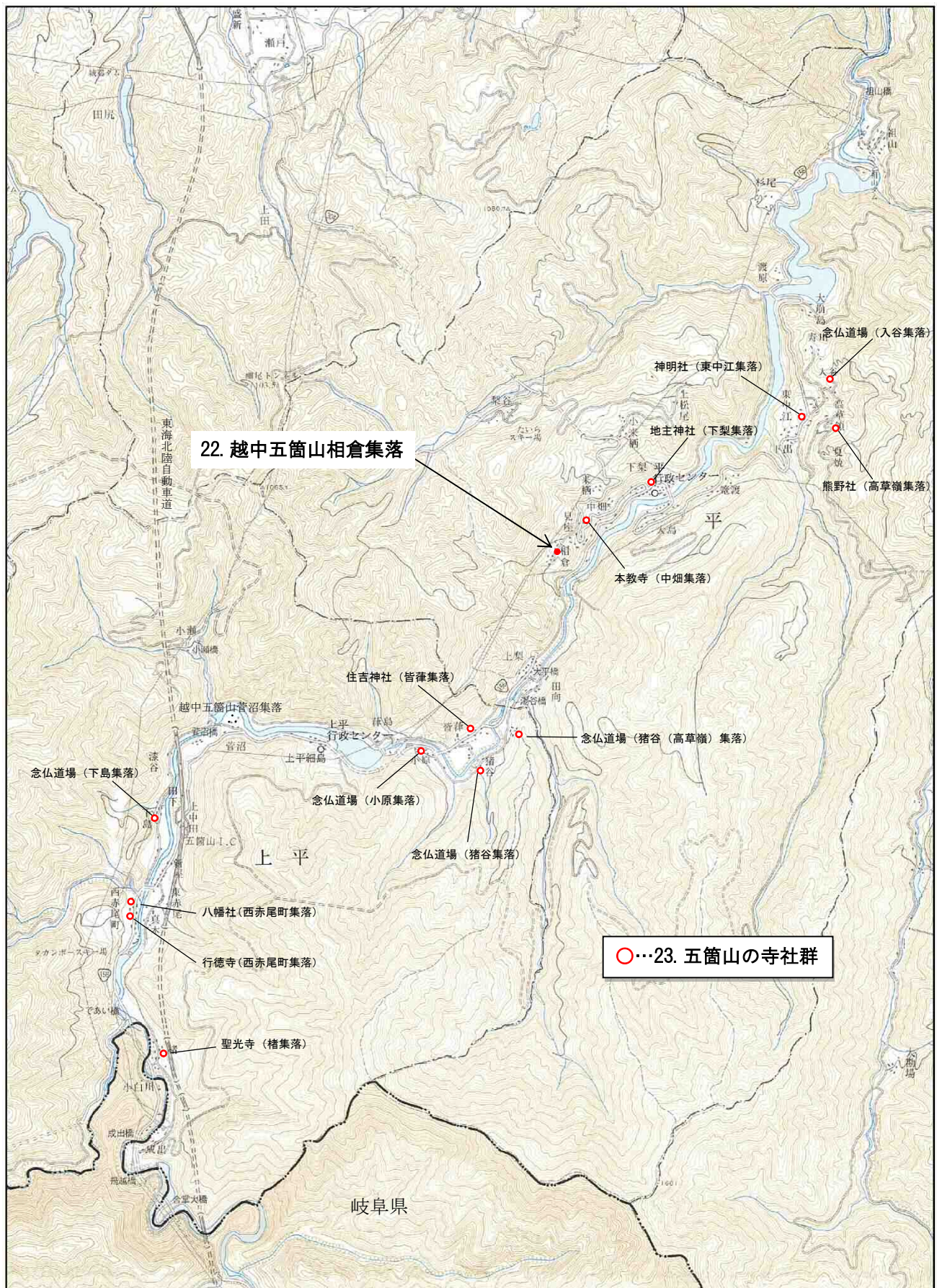
拡大図④ (福光)



拡大図⑤ (城端)



拡大図Ⅱ (五箇山)



ストーリー

【木槌の音が響き、木々の薫りが漂うまち】

瑞泉寺の門前の緩やかな上り坂、石畳の八日町通りには工房や町家が軒をならべ、どの家にも鳳凰や龍、七福神、動植物など様々なデザインの木彫看板や表札が掲げられている。通りのそこかしこから、「とんとん」「かんかん」「シュッシュッ」と時に力強く、時にリズムカルに木を叩き削る木槌の音が響き、辺りには楠や檜、檜など木々の薫りが漂う。ここは木彫刻のまち・井波である。

ひと際目を引く精緻な造りの看板が掲げられている木彫刻職人の工房は、ショーウィンドウのように通りから中を窺うことができ、板張りの作業部屋の手前に弟子達、その奥で親方が自らの技を誇るように鑿を振る。一枚の大きな分厚い板に墨で下絵を描き、200～300種類の彫刻刀を使い分け、荒落し、荒彫り、小彫り、仕上げ彫りにと取組む。大きな欄間や繊細な仏具などは完成までに数か月から数年を要し、職人はその間一心不乱に木と格闘する。欄間や衝立、獅子頭、天神様など彫り上げられた多くの作品は工房内に大切な商品として陳列され、またそれらは若い職人達の貴重な手本ともなっている。

通りにある多くの町家は木造・中二階建てで、通りに面して格子が覆うなど江戸時代からの佇まいを留めており、全体に落ち着いた外観である。造り酒屋の町家の正面には大きな檼の一枚板の彫刻看板が掲げられ、屋号や商号、酒樽の図柄が彫り込まれている。蕎麦屋を営む町家に入ると、江戸時代の職人の手による彫刻欄間をはじめ、衝立や獅子頭など優れた彫刻作品に目が留まる。その他、通りには来訪者を歓迎する大きな木彫刻のモニュメント「花鳥の塔」などと共に、バス停や電話ボックス、ベンチ、街路灯といった井波の人々の暮らしに関わる施設にも木彫刻が施され、伝統的なまちなみと融和している。

一方、通りを北に下る本町通りには、鑿屋、彫刻刀屋、建具屋、木地屋、塗師屋などが建ち並び、彫刻職人を支える職人街として、木彫刻のまちの基盤となっている。本町通りの先には、代々瑞泉寺の大工棟梁をつとめた松井角平の手による旧井波駅舎があり、昭和47年の鉄道廃止以前は瑞泉寺への玄関口として多くの参拝客を迎い入れた。この旧井波駅舎から瑞泉寺へと向かう本町通りと八日町通り、そして八日町通りから東西に伸びる六日町通り、三日町通りなどにも、木彫刻の工房が数多く点在し、木彫刻のまち・井波は形づくられている。

【瑞泉寺の再建と井波彫刻の誕生】

瑞泉寺は現存する北陸最大の木造建築物で、その伽藍は木造寺院としては全国屈指の規模を誇っているが、瑞泉寺と門前のまちは幾度となく井波風と呼ばれる強風が原因で大火となり焼失している。そのため防火対策として、寺の正面には大塼壁と呼ばれる高さ約6.2mもある石垣が築かれ、さらには参道である八日町通りの正面からあえて山門や本堂を少しずらして配置するなど、風の通りを抑える工夫もされており、これらは宝暦12年(1762)の大火後の瑞泉寺再建にあわせてなされたものである。そして、井波彫刻もこの時の瑞泉寺再建をきっかけに産声をあげる。

瑞泉寺再建の際、寺を飾る木彫刻を担うため、京都から派遣された東本願寺の御用彫刻師・前川三四郎に、井波の宮大工四人が弟子となり木彫刻に従事した。井波の宮大工たちは、京の芸術性の高い匠の技を吸収し、脈々と技を磨き受け継ぎながら、華麗で繊細、豪壮で大胆な井波彫刻を生み育てていったのである。

瑞泉寺山門の「雲水一疋龍」は井波彫刻の祖となった前川の作品で、明治12年(1879)の大火の折、木彫りの龍が山門から抜け出し、近くの井戸の水を吸い上げ山門や勅使門に掛け、類焼を免れたと伝えられる。勅使門に彫られている「獅子の子落とし」は、親獅子が千尋の谷に子を落とし、断崖から這い上が



瑞泉寺へと伸びる八日町通り



木彫刻職人の工房



造り酒屋の町家と木彫看板



瑞泉寺の防火・防風壁「大塼壁」



山門に残る「雲水一疋龍」

ろうとする子を岩陰から厳しく、そして慈愛の眼で見守る姿を見事に彫り上げており、日本の木彫刻史上に残る傑作中の傑作と言われる。本堂の東側に建つ大きな太子堂は、大正時代に造られたお堂で各所に職人の技の真髄が見られる。正面階段上の屋根を支える柱の上部内側に彫られた手挟み彫刻は、空間を生み出す奥行きのある彫りで、龍や幾重にも重なって見える波が立体的に表現されている。また、堂内の幾つもの欄間は、表裏に別々の絵柄を透かし彫りで仕上げられ、両側から見上げると、何層にも彫り込まれた深彫りの奥行きが見てとれる。瑞泉寺にあって太子堂は、彫刻装飾の粋を集めた井波彫刻の殿堂とも言われる。仏具においても井波彫刻は優れた作品を生み出しており、なかでも井波彫刻総合会館にある「三草の仏具」と呼ばれる作品は、三つの経机を巧みに組み合わせたもので、その極めて繊細な手わざは見る人を唸らせる。

瑞泉寺の再建に端を発した木彫刻の技は芸術の粋まで昇華し、さながら井波の町は全体が木彫刻の美術館となった。すべては宮大工の鑿一丁から生まれたのである。

【暮らしに根づく井波彫刻と職人の食】

瑞泉寺の背後の八乙女山を越えると、その先は五箇山の合掌造り集落に繋がる。この集落にも井波彫刻は人々の暮らしとともにある。家々には欄間が入り天神様や獅子頭が置かれ、五箇山の寺や神社の仕切り壁や手挟みには素朴で力強い井波彫刻が彫り込まれている。また、この地で代々伝えられて来た獅子舞は、春に豊年を願い、秋には収穫への感謝を表すもので、井波彫刻の獅子頭で勇壮に舞い踊る。

井波の南西に位置する城端地域の曳山祭は、京の華麗なる祭りの流れを汲むもので豪華絢爛たる曳山の飾りは、その多くが井波の木彫刻職人の手による。また、福光地域の神輿、福野地域の曳山や庵屋台にも井波彫刻が施され、これらの地域の豊年と繁栄を祈る祭りや催しなど、人々の暮らしにも井波彫刻は根づいている。

また、かつて木彫刻職人の修行時代を支えた食事には、地元の野菜で作られた「いとこ煮」や「よごし」と呼ばれる料理があり、ハレ（特別）の日には「どじょうの蒲焼」や「かぶら寿司」が食された。これらの食は、今は井波とその周辺地域の名物料理、家庭料理となり振る舞われている。

【継承される伝統の技と広がる井波彫刻】

職人の彫り物は時代とともに変化してきた。瑞泉寺の寺社彫刻を起源とする井波彫刻は、明治以降、住宅欄間や獅子頭、置物、衝立などを手がけ、近年ではドアの装飾や照明器具といったインテリア、日用品や嗜好品などを手がけるなど、時代が求めるニーズに合わせ柔軟に対応し創作してきた。木彫刻のみで250 年余も生き抜けたのはそれ故であり、井波のまちを見事な木彫刻の作品で埋め尽くすとともに、今も新しい木彫刻作品を創造し続けている。

現在、井波には木彫刻職人は250 人を数え、200 軒もの工房が高い技術で競い合う。井波には、木彫刻職人を目指す多くの若者が全国から集まり、修行し腕を磨き、一人前の職人となり井波でそして全国でその腕を振るう。受け継がれてきた高度な木彫刻の技は、日本各地の曳山や屋台、寺社仏閣や城郭などの彫刻に使われ、日本の伝統や文化を支えている。今や井波彫刻とその職人たちは、井波を木彫芸術のまちに造り上げただけでなく、日本の木彫刻文化を支える護り手となった。



勅使門に残る「獅子の子落とし」



太子堂の手挟み彫刻



五箇山合掌造り集落の獅子舞



城端曳山祭の曳山



鑿を振るう彫刻職人

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
1	井波彫刻	未指定 (伝統的工芸品)	宝暦 12 年 (1762) の大火後の瑞泉寺再建の折、京都本願寺から派遣された御用彫刻師の技を、地元の宮大工が習ったのが井波彫刻の始まりである。現在も門前の八日町通りや本町通りには、多くの彫刻工房が軒を連ね、木槌の音を響かせている。	
2	いなみべつじんずいせんじ 井波別院瑞泉寺	市指定文化財 (建造物・史跡)	明徳元年 (1390) に創建された、井波彫刻誕生のきっかけとなった寺。本堂や太子堂、勅使門等において、欄間や龕、手挟等、井波彫刻の粋を凝らした優れた装飾を数多く見ることができる。	
3	ずいせんじ 瑞泉寺山門	県指定文化財 (建造物)	山門に施された井波彫刻の多くは井波の宮大工 (彫刻師) の手によるものである。正面には京都本願寺の御用彫刻師、前川三四郎が彫った龍の彫刻欄間「雲水一足龍」が見られる。	
4	ずいせんじちよくしもん 瑞泉寺勅使門	市指定文化財 (建造物)	寛政 4 年 (1792) に再建された門で、小脇に日本木彫刻史上の傑作中の傑作とされる番匠屋七左衛門 (田村七左衛門) 作の「獅子の子落とし」が見られる。	
5	ずいせんじ 瑞泉寺太子堂	市指定文化財 (建造物)	井波彫刻の興隆期である大正期に再建された太子堂は、至るところに井波彫刻の傑作が飾られている。井波彫刻の殿堂ともいえる建造物である。	
6	うんすい いっぴきりゅう 雲水一足龍	県指定文化財 (建造物)	瑞泉寺山門にある彫刻で、京都本願寺の御用彫刻師、前川三四郎の作。生きているかのような龍の彫刻は、井波彫刻の原点ともいえる極めて秀逸な作品である。	
7	獅子の子落とし	市指定文化財 (建造物)	瑞泉寺勅使門にある井波彫刻。番匠屋七左衛門 (田村七左衛門) の作で、日本木彫刻史上の傑作中の傑作といわれている。	

8	だいろうへき 大 楼 壁	市指定文化財 (建造物)	宝暦12年(1762)の大火後、瑞泉寺の再建とあわせ築かれた石垣造りの防火・防風壁。	
9	ようかまち 八日町通り	未指定	瑞泉寺へと続く石畳の通りには、多くの彫刻工房が軒を連ね、木槌の音を響かせる。通りの至るところに木彫刻が施され、木彫刻のまちの雰囲気をもっと感じられる場所である。	
10	さいがけ 齋賀家住宅	国登録有形文化財	八日町通りにある、江戸時代の門前町の住宅様式を伝える町家。一階仏間、二階座敷において、井波彫刻の欄間を見ることができる。	
11	町家の彫刻欄間	未指定	八日町通りの町家の屋内では、井波彫刻の代名詞とも言える彫刻欄間を見ることが出来る。中でも古い時代のものは高い評価を受けており、見応えある作品が多い。	
12	町家の木彫刻看板と表札	未指定	八日町通りの造り酒屋など町家の看板や表札も井波彫刻である。八日町通りを中心に、三日町通りや六日町通り等の各家々にも井波彫刻の表札や門燈などが掲げられている。	
13	ほんまち 本町通り	未指定	本町通りから八日町通りを上がり、瑞泉寺へと続く。通りには彫刻工房をはじめ、鑿屋や彫刻刀屋などの関連店舗が軒を連ねる。	
14	井波町物産展示館 (旧井波駅舎)	国登録有形文化財	代々瑞泉寺の大工棟梁をつとめた松井角平の手による旧駅舎で、かつては参拝客を迎い入れる玄関口であった。総檜造りで、欄間彫刻や <small>かざるまた</small> 襖股を用いた仏閣風の意匠に特徴がある。	
15	じょうれんじ 浄蓮寺の おきなづか 翁 塚と 黒髪庵 くろかみあん	市指定文化財含む (史跡)	八日町通りの裏通りにある、俳人芭蕉ゆかりの場所。芭蕉の弟子であった瑞泉寺11代浪化上人150回忌に黒髪庵の庭内に芭蕉堂が建てられ、井波彫刻の芭蕉像が安置されている。	

1 6	きゅうろうすい 臼浪水	市指定文化財 (史跡)	瑞泉寺の開基 ^{しやくによしやうにん} 綽如上人が乗っていた馬の足かきによって湧き出たと言われる霊泉。「井波」と言う地名や、瑞泉寺の発祥の地とされる。	
1 7	井波の ^{かいこどう} 蚕堂	市指定文化財 (建造物)	瑞泉寺の東に位置する養蚕社。井波の宮大工が建造した社殿「蚕堂」には、見事な木組みと細工が施され、随所に井波大工の技が見られる。本殿の両脇には、蚕にかかわる馬や桑葉の井波彫刻が見られる。	
1 8	井波彫刻総合会館の 木彫刻作品群	未指定	管内は瑞泉寺の伽藍配置をモデルにしている。豪華絢爛な欄間をはじめ衝立・獅子頭・天神様、など数百点に及ぶ井波彫刻の作品が展示されている。	
1 9	さんしよく ^{ぶつぐ} 三卓の仏具	未指定	番匠屋 11 代目田村与八郎の作で、大・中・小の経机、香炉台を組み合わせた仏具である。施された彫刻は極めて精緻で精巧であり、井波彫刻の最高傑作のひとつとされる。	
2 0	越中一宮高瀬神社	市指定文化財 (史跡)	本殿などで見事な井波彫刻を見ることができる。旧本殿は天保7年に建立された井波彫刻の粋を尽したものである。	
2 1	や おとめやまとりづか ^{かざあな} 八乙女山鶏塚と風穴	市指定文化財 (史跡)	八乙女山の風穴から吹き下ろす「井波風」と呼ばれる強風が災いし、瑞泉寺は幾度となく大火にあい、再建が繰り返されてきた。山頂近くに風穴があり、8 世紀ごろ、越前の僧が ^{ほくら} 祠を建て、風の神をしずめたと伝えられている。	
2 2	えつちゅうごかやまいのくら 越中五箇山相倉集落	国指定史跡	地主神社拝殿の脇戸には「獅子の子落とし」の図が彫刻され、合掌造り家屋では井波彫刻の欄間を見ることができる。春祭りには、井波彫刻の獅子頭を付けたむかで獅子が集落を舞い歩き、五穀豊穡や家内安全を祈願する。	
2 3	五箇山の寺社群	未指定	五箇山は浄土真宗の信仰が篤い土地柄であり、瑞泉寺との繋がりも深く、五箇山にある寺、念仏道場、神社の多くに井波彫刻が施されている。	

24	じょうはな 城端神明宮祭の 曳山行事	国指定 無形民俗文化財	毎年5月初めに行われる城端神明宮の春季祭礼において、井波彫刻で装飾された豪華絢爛な曳山が町内を巡行する。通年、城端曳山会館で展示されている。	
25	庵屋台	市指定文化財 (工芸品)	城端神明宮の春季祭礼において、曳山とともに町内を巡行する屋台。井波彫刻による精緻な欄間がはめ込まれている。通年、城端曳山会館で展示されてる。	
26	ふくの 福野神明社 春季祭礼曳山	市指定文化財 (有形民俗文化財)	福野神明社の春季祭礼において、町内を巡行する曳山と庵屋台に、井波彫刻の見事な装飾を見ることができる。	
27	宇佐八幡宮春季祭礼	未指定	福光にある宇佐八幡宮の春季祭礼において、神輿や獅子舞とともに町中を巡回する庵屋台に、井波彫刻の装飾を見ることができる。	
28	井波八幡宮の 春季例大祭	未指定	井波八幡宮の春季例大祭において、八日町通りなど町内を巡行する大神輿や提灯屋台に井波彫刻の装飾を見ることができる。奉納される獅子舞の獅子頭も井波彫刻である。	
29	きやり 木遣踊り	未指定	江戸時代、焼失した瑞泉寺を再建する為、遠く五箇山から大木を運んだ際に歌われた唄が起源とされる民俗芸能。毎年、瑞泉寺の伝統行事「太子伝会」の際、踊りが奉納され、八日町通りでは木遣り踊りの町流しが行われる。	
30	よごし	未指定	かつて、彫刻職人の修行時代を支えた食事の一つ。野菜を茹で細かく切り、味噌で味付けした郷土料理。	
31	いところ煮	未指定	小豆などを煮た郷土料理で、かつては、彫刻職人の修行時代を支えた食事の一つである。	
32	どじょうの蒲焼	未指定	かつて、ハレの日に食された食事の一つ。栄養豊富であり貴重な栄養源として今も彫刻職人に親しまれている。	
33	かぶら寿司	未指定	かぶらに切り込みを入れ、鰯・鯖などを挟んで発酵させたもの。正月料理として今も彫刻職人に好んで食されている。	

構成文化財の写真一覧

1. 井波彫刻^{いなみ}



2. 井波別院瑞泉寺^{ずいせんじ} ※写真は本堂



3. 瑞泉寺山門



4. 瑞泉寺勅使門^{ちよくしもん}



5. 瑞泉寺太子堂^{たいしどう}



6. 雲水一疋龍^{うんすい いっぴきりゅう} ※瑞泉寺山門の彫刻



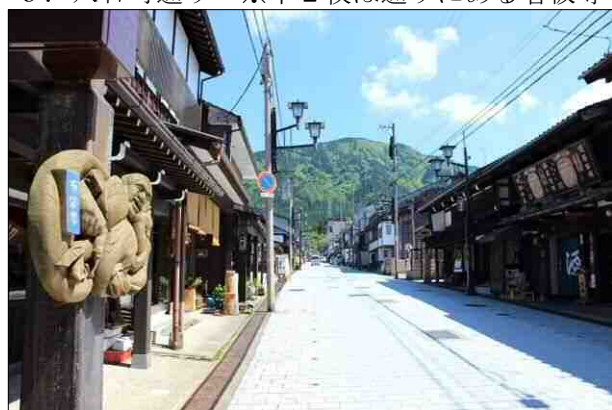
7. 獅子の子落とし ※瑞泉寺勅使門の彫刻



8. 大^{だいろうへき}楼壁



9. 八^{ようかまち}日町通り ※下2枚は通りにある看板等



10. 齋^{さいがけ}賀家住宅



11. 町家の彫刻欄間



12. 町家の木彫刻看板と表札 ※写真は造り酒屋



13. 本町通り



14. 井波町物産展示館 (旧井波駅舎)



15. 浄蓮寺の翁塚と黒髪庵
じょうれんじ おきなづか くろかみあん



16. 白浪水
きゅうろうすい



17. 井波の蚕堂
かいこどう



18. 井波彫刻総合会館の木彫刻作品群



19. ^{きんしよく}三卓の仏具



20. 越中一宮高瀬神社



21. ^{やおとめやまとりづか}八乙女山鶏塚と^{かざあな}風穴



22. ^{ごかやまあいのくら}越中五箇山相倉集落 ※左は相倉集落の獅子舞。右は地主神社脇戸の彫刻「獅子の子落とし」



23. 五箇山の寺社群



24. 城端^{じょうはな}神明宮祭の曳山行事



25. 庵屋台



26. 福野^{ふくの}神明社春季祭礼曳山



27. 宇佐八幡宮春季祭礼



28. 井波八幡宮の春季例大祭



29. きやり 木遣踊り



30. よごし



31. いとこ煮



32. どじょうの蒲焼



33. かぶら寿司



日本遺産を通じた地域活性化計画

(1) 将来像（ビジョン）

井波のまちは、瑞泉寺の創建（1390年）とともに門前町として形づくられてきた。江戸時代中期に瑞泉寺が大火で焼失をし、その再建の際に京都より木彫刻師・前川三四郎が派遣され、井波の宮大工たちを弟子とし木彫刻の技を教えたことから井波彫刻が生まれた。その技は井波の地で脈々と磨き受け継がれ、井波彫刻は木彫芸術と言われるまでになり、この地の一大産業となった。今現在、井波のまち全体が木彫刻で飾られている姿は、まるで野外美術館であるかのような魅力に溢れているが、井波の全国的な認知度・知名度は決して高くなく、井波彫刻も一部の美術家や建築関係者、木彫刻愛好者などに知られているだけである。ましては井波のまちの歴史的・景観的な価値について知る人は少なく、したがって、井波を訪れる国内外の観光客も多くはない。

井波地域の振興と活性化を図るには、井波の歴史と伝統・文化を基に、井波彫刻の卓越した技と井波のまちなみの美しさ等、井波の魅力を国内外の観光客に知って頂き、「観光のまち・井波」として再生を図らなければならない。井波には「瑞泉寺」をはじめ「井波彫刻」と「歴史的なまちなみ」の他、有形・無形の魅力ある地域資源があり、それを活かしたまちづくりを推進し、そして、その原動力となる各分野でのプレーヤーを育て伸ばしていく。

日本遺産を通じた地域活性化計画により描く、井波のまちの将来像は次のとおりである。

- 日本の最高峰の木彫職人と木彫文化のまち・井波を創成し、世界の木彫刻のプラットホームをめざす。
- 1) 「井波彫刻」の高度な木彫技術が受け継がれ、さらにその技術に磨きが掛けられ日本の最高峰の木彫のまちとして歴史と伝統、文化や芸能に彩られた井波のまちを保全し、後世に維持していく。
 - 2) 木彫文化の担い手として職人たちが井波の地で修業に励み技術を磨き、日本の木彫刻の文化を担い支えていく。
 - 3) 木彫職人を志す若者たちが全国、世界から井波に集まり、親方のもと修行に励み、一流の木彫職人を輩出し続けるまちである。
 - 4) 伝統の井波の彫り物や欄間、獅子頭、天神様などとともに時代のニーズに合わせて「井波彫刻」の技が光る創作物を作り続ける。
 - 5) 歴史的木造建造物の修理や保存に欠かせない木彫刻集団として、全国の城郭や寺社仏閣、家屋など修復を一手に引き受けていく。
 - 6) 世界水準の技術を要する木彫・井波彫刻として、国内のみに留まらず木彫刻の世界市場に進出をしていく。
 - 7) 「井波彫刻」と「井波のまち」の魅力を全国、そして世界に発信し続け、木彫刻のオンリーワンの観光地・井波を創り上げる。
 - 8) 井波に暮らす人々と観光客（外部からの来訪者）とが共に「井波彫刻」と「井波のまち」を理解し合い共存共栄出来るまちを創る。
 - 9) 「井波のまち」に新たな多様な観光関連産業（彫刻体験やガイド、レストランやカフェ、お土産物屋やB&C（ベッド&クラフト）宿泊施設）が生まれ、これまでの産業とリンクした若者や女性たちの働く場や活躍の舞台が広がる木彫のまちとしての観光ビジネスが活性化される。
 - 10) 「井波彫刻」と「井波のまち」の魅力に触れ、各地から移住・定住者が増え、新たな人々が参画することにより地域に活力と賑わいが創出される。

南砺市総合計画では目指すべき将来像の一つに「創造的で元気なまち」を掲げる。南砺市の多様で豊かな自然・歴史・文化を活かし、心豊かな人材育成や文化芸術振興、地域内外との交流・連携などを図るとともに、産業振興や定住対策を講じ、創造的で活力ある地域づくりを目標とするものであり、その実現に資する日本遺産による取り組みを重要な施策として位置づけ、市として一体的にその取り組みを支援し、他の施策分野とも連携させながら、将来像実現に向けた取り組みを推進する。

「南砺市交流観光まちづくりプラン」では、「交流観光」そして「ヒトづくり、モノづくり、コトづくり」を推進するため、「観光資源の開発と活性化」「滞在型観光の推進」「観光客誘致活動の強化」「観光客受け入れ体制の強化」「国際観光の推進」を主な施策とし取り組んでいる。その中でも「井波彫刻」や「井波の歴史的まちなみ」等は重要な観光資源として位置付けられており、「富山県観光振興戦略プラン」との連携も図り、広域的視野もいれながら取り組みを進める。

なお、「木彫刻のまち・井波」の日本遺産認定により、南砺市は世界文化遺産「五箇山の合掌造り集落」、ユネスコ無形文化遺産「城端神明宮祭の曳山行事」の、これら3箇所を結ぶ「トライアングル構想」が形成される。南砺市全域に歴史と文化に彩られた異なる魅力を持つ周遊型観光と滞在型観光が確立することで、多彩な観光圏として地域振興と活性化を推進する。

（２）地域活性化のための取組の概要

- ①日本遺産井波ブランドを構築し、国内外に向けて井波の木彫り文化とまちの魅力を発信する。
井波彫刻と井波のまちの国内外での知名度を高めるために、日本遺産井波のブランドを構築し、統一したイメージ戦略や観光商品等の競争力を高めるとともに、その魅力を発信する。
- ②国内観光客及び訪日外国人が木彫体験や周遊観光しやすい環境を整備する。
井波地域に訪れる観光客のため、瑞泉寺や井波彫刻、井波のまちをより詳しく知るための案内表示板やwi-fi環境の整備、観光マップ・パンフレット、井波物語（歴史や文化等井波地域の観光資源の説明書）等多言語化を進め、日本遺産井波の魅力をより多くの国内観光客及び訪日外国人に周知する。
- ③井波彫刻の高度な技の伝承と後継者の育成を図るとともに、木彫りの職人集団としての一段の力量を高める。
井波彫刻の伝統的な技術力と時代に相応した創作活動を展開し、後継者の育成に力を注ぎ、高度な技術が後世に受け継がれていくとともに、井波彫刻集団として日本そして世界の木造建築物の修理・保全の責務を担っていく。
- ④井波地域の伝統産業である「井波彫刻」と「瑞泉寺の信仰」などを活かした観光で振興を図る。
井波のまちは北陸随一の木造寺院・瑞泉寺と最高峰の木彫り・井波彫刻（伝統的工芸品）と職人たちが築いたまちであることを国内外の観光客に知って頂くとともに、これらの魅力があいまって、さらに井波地域の魅力を拡大していく。また、これらに関わる新たな産業を創出する。
- ⑤井波日本遺産推進協議会による民間主導のまちづくりを推進する。
井波日本遺産推進協議会のもとにワーキンググループを設定し、地域住民をはじめ井波彫刻組合等の各種団体・グループ、事業者、ボランティアグループ、行政とが一体となり、それぞれの役割と立場を明確にした、推進体制を構築し、互いに連携を図り、地域の活性化を図る。
- ⑥地域住民の意識向上・啓蒙と、若者や女性、移住者が働く場と活躍の舞台を創出する。
地域住民に対して、井波彫刻をはじめとする文化財や伝統工芸など、改めて祖先から受け継いできたものの尊さを再認識し、地域に対する市民の誇りや愛着が醸成されるよう、啓発活動（例えば地元中学校生徒による総合学習「井波のまち歩き」といった調査、研究発表やシンポジウム）を展開する。さらに、未来を展望した新しい地域づくりには、若者や女性そして、域外からの移住者等に参画して頂き、働く場や活躍の場を創り出していく。
- ⑦井波の歴史あるまちなみの景観を保全・整備し、井波地域の魅力を創出する。
瑞泉寺の門前町として発展した八日町通りと本町通り、そして周辺の通りに点在する職人の工房と歴史的建造物などの門前町を、歴史と伝統的なまちなみを井波の周遊観光の里安は具像化し、保全、休土・修景を図る。

本事業を進めていくにあたり、魅力ある井波地域に訪れて頂きたい国内外の観光客（ターゲット）とは

- ・日本最高峰の木彫芸術や木彫刻の木の文化に関心を持たれる人々
- ・木彫・井波彫刻の高い技術を学び・体験したいと思う人々
- ・木の薫り漂う工房や町家、住民が造り上げたまちなみや景観に関心を持たれる人々
- ・北陸最大の木造建築物であり「井波彫刻」の粋を集めた瑞泉寺とその参拝者
- ・「井波彫刻」や「瑞泉寺」など日本遺産井波の有形・無形の文化に関心を合わせ持つ人々であり、井波の魅力に触れて何度も井波地域を訪れてくれる人々

日本遺産認定後のスケジュールについては、

平成30年度は、日本遺産として国内外の観光客が訪れるにあたり、不可欠な井波地域の観光施設・資源等の諸整備を行うとともに、日本遺産を推進する組織体制を確立し運営を始める。

平成31年度は、初年度に続き、観光施設・資源等の諸整備を充実させ、国内外の観光客を円滑に受け入れる観光地としての魅力を創り出す。

平成32年度は、地域活性化の取組みを着実に進めることにより、日本遺産認定を通して井波地域の振興と活性化が図られ、そして、自主的かつ自立的な運営体制と継続的な活動をする盤石な基盤を確立する。

（３）自立的・継続的な取組

- ・井波日本遺産推進協議会は、関連する参加団体や参加企業、住民の合意のもとに、一元的管理体制を作り、組織の運営や人的措置、資金の調達等に取り組む。
- ・井波日本遺産推進協議会は、観光のワンストップの総合窓口として日本遺産井波ビジターセンターを整備し、観光案内をはじめ、駐車場の管理や日本遺産井波の観光関連事業者、宿泊施設、ガイド、飲食店・土産物店、体験メニュー等の紹介・斡旋を行い、規定のもとで対価を得る。
- ・井波日本遺産推進協議会は、観光商品の開発を参加事業者とともに積極的に行い、体験メニューや多様な観光コース、宿泊施設の魅力、料理やファストフード土産物の開発等々を推進する。
- ・井波日本遺産推進協議会は、大手旅行代理店や旅行者との提携を結び、日本遺産井波観光へのコーディネーター役を果たし、その対価を得る。
- ・ふるさと納税に日本遺産への取り組みの項目を設け、全国からの支援を頂く。
- ・井波日本遺産推進協議会は、日本遺産井波クラウドファンディング（仮称）を立ち上げ、まちなみの整備や保全、井波彫刻の伝承、木彫刻コンクールや企画展等への支援を頂く。また、木彫刻の材料となる樺を育てる「千年の樺の森」に取り組み循環型・共生型のまちづくりを進めるとともに、各企業への支援も働きかける。
- ・井波日本遺産推進協議会は、国内外からの支援を頂く「日本遺産井波サポーター制度」を創設する。サポーター制度登録者には「日本遺産井波住民証」（仮称）を授与するとともに、地域住民との交流を図る。

（４）実施体制

- ・協議会の名称：
井波日本遺産推進協議会
- ・構成団体：
井波地区自治振興会、南砺市観光協会井波支部、井波彫刻協同組合、南砺市商工会井波支部
南砺市商工会井波支部女性部、南砺市商工会井波支部青年部、観光ガイド「井波の風」
（休）井波木彫りの里、井波別荘瑞来寺、B&C IATEGUYA、NPO法人心来いソノミ、（休）まちづくり井波
（公社）となみ青年会議所、南砺市井波行政センター、南砺市交流観光まちづくり課、南砺市商工課
南砺市文化・世界遺産課
- ・協議会を円滑に運営するための仕掛け：
協議会が主導し、最終的な意思決定は15名程度で構成する協議会が行う。また、協議会のもとにワーキンググループを設置する。ワーキンググループは「情報発信グループ」「人材育成グループ」「普及啓発グループ」「調査研究グループ」「施設環境整備グループ」（何れも仮称）の5グループで構成、協議会メンバーが各ワーキンググループに加わり、具体的な取組を進めていく。協議会には正副会長を任命し、各ワーキンググループには正副リーダーを任命する。正副会長及びリーダーの任命権は協議会が持ち、適任者を任命する。推進にあたって、市と連携をとる為、協議会の正副会長と市の担当職員で構成する「井波日本遺産執行会議」（仮称）を設置し、協議会と市で連携を図りながら推進していく。なお、将来像達成に向けた各種取組の確実な推進のため、地域活性化の実績のある外部専門家の協力を受ける。
- ・将来的にはDMOを目指せる体制にしていく：
協議会が主導して、ワーキンググループが中心となり実質的な事業の推進をしていく。平成32年度（平成33年3月）を目標に地域が活性していく中で、協議会がまちづくりの法人化を目指す。（一般社団法人「井波日本遺産推進機構」（仮称））平成33年度からは、この法人を軸に自立的・継続的に運営・推進していけるよう取組を進める。

(５) 地域活性化計画における目標と期待される効果		定量的評価：		別紙①のとおり			
期待される効果：	<ul style="list-style-type: none">・ブランド化を進めることにより、統一したイメージ戦略の展開が可能となり、観光商品としての競争力、土産物・食品・グッズ等の販売においても競争力が高まる。・日本の各地で伝統工芸や文化の衰退が余儀なくされている中で、今後も新しい人材を確保しながら、技術・伝統を確実に残し、持続可能な技術集団の形成に繋がる。・先人たちが伝え残してきた、井波彫刻とその関連業や、歴史あるまち並みの継承に繋がり、住民が誇りを持って暮らせるまちの創出に繋がる。・井波彫刻に関心を持つ人たちや美術愛好家、海外の日本美術に関心を持つ人たちなど国内外からの観光客を呼び込み、リピーターの増加に繋がる。・井波日本遺産推進協議会が主導し、ワーキンググループが実働していくという推進体制により実質的、具体的な取組となっていくことで、若者や女性など多くの個人・団体を巻き込みながら広く地域全体にわたる取組となり、新たなコミュニティーも生まれるなど、まち全体の活性化に繋がる。・井波彫刻と井波のまちを改めて良く知る機会を得ることで、地域の宝の再発見と交流人口の増加や地域経済の活性化により、域外からの移住者の転入等、活気のある町の創出に繋がる。・自立的な運営をめざし、推進協議会やワーキンググループのメンバー以外の住民も積極的に井波のまちづくり、運営に関心を持っていくことに繋がる。・日本遺産と世界遺産、ユネスコ無形文化遺産を結ぶトライアングル構想の形成により、市全体の交流人口の増加と観光振興、地域の活性化に繋がる。						
	(６) 日本遺産魅力発信推進事業		別紙②のとおり				
	補助金額：	平成30年度：	50,400千円	平成31年度：	27,700千円	平成32年度：	13,000千円
	(７) その他事業		別紙③のとおり				

(5) 地域活性化計画における目標と期待される効果

設定目標Ⅰ：	日本遺産を活用した集客・活性化		
計画評価指標：	観光客入込み数 (具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	井波への国内観光客入込み数		
目標値：	平成 29 年度	194 千人 ⇒ 平成 35 年度	254 千人
設定根拠：	近年の実績は平成27年度213千人、平成28年度194千人であり、平成29年度は前年度同程度と想定し、平成30年度以降は、毎年度、対前年度比で平均10千人の増を設定。		
設定目標Ⅰ：	日本遺産を活用した集客・活性化		
計画評価指標：	観光客入込み数 (具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	井波への外国人観光客数		
目標値：	平成 29 年度	141 人 ⇒ 平成 35 年度	1,600 人
設定根拠：	平成28年度の実績は141人であり、平成29年度は前年度と同程度と想定し、平成30年度以降は、毎年度、前年度対比で50%の伸び率を設定。		
設定目標Ⅰ：	日本遺産を活用した集客・活性化		
計画評価指標：	経済効果 (具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	道の駅いなみ木彫りの里の売上額		
目標値：	平成 29 年度	100,780 千円 ⇒ 平成 35 年度	127,000 千円
設定根拠：	平成28年度は100,780千円であり、平成29年度は前年度と同程度と想定し、平成30年度以降は、毎年度、前年対比で4%の伸び率を設定。		
設定目標Ⅱ：	日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化		
計画評価指標：	地域の文化に誇りを感じる住民の割合 (具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	市民意識調査の「地域に誇り・愛着を感じている」の割合		
目標値：	平成 29 年度	69.3 % ⇒ 平成 35 年度	73.5 %
設定根拠：	平成28年度は69.6%、平成29年度は69.3%で減少している。平成30年度以降は、毎年度、前年対比で1%の伸び率を設定。		
設定目標Ⅲ：	日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立		
計画評価指標：	日本遺産への協力団体数 (具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	井波日本遺産推進協議会の取り組みに対する参画事業者数		
目標値：	平成 30 年度	1 団体 ⇒ 平成 35 年度	6 団体
設定根拠：	井波日本遺産推進協議会に今後新たに参画する事業者について、平成30年度以降、毎年度、1事業者の増加を設定。		

設定目標Ⅲ：	日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立		
計画評価指標：	日本遺産のためのふるさと納税額（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	寄付項目「教育・文化の振興、世界遺産の保全に関すること」の寄付金額		
目標値：	平成 29 年度	2,130 千円 ⇒ 平成 35 年度	6,360 千円
設定根拠：	平成29年度は前年度と同額程度と想定し、平成30年度以降は毎年度、対前年度比20%の伸び率を設定。		
設定目標Ⅲ：	日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立		
計画評価指標：	日本遺産のための寄付額（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	クラウドファンディング、サポーター制度等の導入による寄付額		
目標値：	平成 30 年度	1,000 千円 ⇒ 平成 35 年度	7,600 千円
設定根拠：	協議会自主事業としてクラウドファンディングやサポーター制度の導入に取り組む。初年度(h30)の目標を1,000千円とし、以降毎年度、前年対比で50%の伸び率を設定。		
設定目標Ⅳ：	その他		
計画評価指標：	その他（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	一般社団法人「井波日本遺産推進機構」（仮称）の設立による雇用創出		
目標値：	平成 29 年度	－ 人 ⇒ 平成 35 年度	3 人
設定根拠：	井波日本遺産推進協議会の活動により、自立的・継続的な運営を可能にし、平成33年3月を目標に、一般社団法人「井波日本遺産推進機構」（仮称）を設立し、新たな雇用を創出する。		

様式4（別紙②）

（6）日本遺産魅力発信推進事業

事業①：	ブランドデザインの作成		
事業区分：	情報発信	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 30 年度
補助金額：	平成30年度： 2,000千円	平成31年度：	0千円
(積算)	制作費用一式		平成32年度： 0千円
事業概要：	日本遺産井波のシンボルマークやロゴマーク、キャッチコピー等を作成し、協議会から発信する全てのものに使用。長期的には地域産品の包装等にも使用することで、ブランド力と認知度の向上を図る。		
評価指標区分：	その他	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	井波への国内外観光客入込み数		
目標値：	平成 29 年度	194 千人	⇒ 平成 35 年度 255 千人
事業②：	プロモーション映像の作成		
事業区分：	情報発信	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 31 年度
補助金額：	平成30年度： 8,000千円	平成31年度：	2,000千円
(積算)	制作費用一式	制作費用一式	平成32年度： 0千円
事業概要：	【1年目】情報発信と認知度アップのため、プロモーション映像（ロングバージョン）を制作する。3分程度の映像とし、ホームページ上やプロモーションイベント等で映像を発信する。 【2年目】更なる情報発信と認知度アップのため、プロモーション映像（ショートバージョン）を制作する。30秒程度の映像とし、ホームページ上やSNS・YouTube等で映像を発信する。		
評価指標区分：	コンテンツダウンロード数（掲載HPや動画共有サイトでの再生回数等）	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	ホームページや動画サイト等での年間映像再生数		
目標値：	平成 30 年度	10,000 回	⇒ 平成 35 年度 200,000 回
事業③：	プロモーション映像の多言語化作成		
事業区分：	情報発信	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 31 年度
補助金額：	平成30年度： 0千円	平成31年度：	2,000千円
(積算)		制作費用一式	平成32年度： 0千円
事業概要：	プロモーション映像（ショートバージョン）の多言語版を作成し、広く国外へ情報発信する。（英語、中国語、韓国語）		
評価指標区分：	外国人入込み数	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	井波への外国人観光客入込み数		
目標値：	平成 29 年度	141 人	⇒ 平成 35 年度 1,600 人
事業④：	多言語対応日本遺産紹介ウェブサイト(含フェイスブック、インスタグラム)の作成		
事業区分：	情報発信	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 32 年度
補助金額：	平成30年度： 5,000千円	平成31年度：	2,000千円
(積算)	制作費用一式	制作費用一式	平成32年度： 2,000千円
事業概要：	【1年目】日本遺産井波のウェブサイト（日本語/英語版）を作成。QRコード対応とする。 【2年目】ホームページ（フランス語・中国語版）を作成。 【3年目】ホームページ（スペイン語・韓国語版）を作成。		
評価指標区分：	ホームページ閲覧数（PV数）	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	日本遺産紹介ウェブサイト（含フェイスブック、インスタグラム）の閲覧数		
目標値：	平成 30 年度	10,000 回	⇒ 平成 35 年度 150,000 回

事業⑤：日本遺産PR用ポスターの作成			
事業区分：	情報発信		事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 32 年度
補助金額：	平成30年度： 5,200千円	平成31年度： 2,500千円	平成32年度： 2,500千円
(積算)	制作費用一式	制作費用一式	制作費用一式
事業概要：	【1年目】首都圏のＪＲ東日本の主要駅（東京駅等）に掲示するためのポスターを製作 【2年目】ＪＲ東海主要駅（名古屋、大阪等）に掲示するためのポスターを製作 【3年目】ＪＲ東日本東北エリアの主要駅（大宮、仙台等）に掲示するためのポスターを製作		
評価指標区分：	その他		(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標：	井波への国内外観光客入込み数		
目標値：	平成 29 年度 194 千人 ⇒ 平成 35 年度 255 千人		
事業⑥：日本遺産パンフレットの作成			
事業区分：	情報発信		事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 32 年度
補助金額：	平成30年度： 2,800千円	平成31年度： 2,600千円	平成32年度： 1,800千円
(積算)	制作費用一式	制作費用一式	制作費用一式
事業概要：	【1年目】観光者及び旅行者向けのパンフレットデザインの制作・印刷 【2年目】主にフランスやシンガポールからの観光客向けに制作・印刷 【3年目】主に香港や台湾からの観光客向けに制作・印刷		
評価指標区分：	その他		(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標：	井波への国内外観光客入込み数		
目標値：	平成 29 年度 194 千人 ⇒ 平成 35 年度 255 千人		
事業⑦：日本遺産井波まちめぐりマップの作成			
事業区分：	情報発信		事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 30 年度
補助金額：	平成30年度： 2,000千円	平成31年度： 0千円	平成32年度： 0千円
(積算)	制作費用一式		
事業概要：	日本遺産井波のストーリーや構成文化財を満喫できる、まちめぐりマップを作成し、観光客の利便性や満足度の向上につなげる。		
評価指標区分：	その他		(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標：	アンケート調査により観光客の満足度を量る。		
目標値：	平成 30 年度 40 % ⇒ 平成 35 年度 60 %		
事業⑧：井波物語（フリーペーパー）の作成			
事業区分：	情報発信		事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 32 年度
補助金額：	平成30年度： 800千円	平成31年度： 800千円	平成32年度： 800千円
(積算)	制作費用一式	制作費用一式	制作費用一式
事業概要：	日本遺産井波に関する年度ごとの取り組みや成果をまとめたフリーペーパーを作成し、井波地域を中心に配布し日本遺産井波の周知、普及啓発を図る。		
評価指標区分：	その他		(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標：	市民意識調査における井波地域住民の「地域に誇り・愛着を感じている」の割合		
目標値：	平成 29 年度 69.3 % ⇒ 平成 35 年度 73.5 %		

事業⑨：日本遺産井波観光コンシェルジュ（ガイド）育成			
事業区分：	人材育成	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 31 年度
補助金額：	平成30年度：1,000千円	平成31年度：800千円	平成32年度：0千円
(積算)	実施費用一式	実施費用一式	
事業概要：	地元観光事業者、木彫刻職人等を対象に、日本遺産井波のガイドの育成を図り、ガイド組織の充実、観光客受入体制を整える。 【1年目】礼儀作法から基礎教育のための教本等を作成し、基礎教育講座を実施。 【2年目】実践講座として、旅行代理店のエージェントや留学生等を招いてのモニターツアーを実施。		
評価指標区分：	ガイド育成講座修了者の後年度活動者数		(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標：	ガイド育成講座受講者の後年度以降の活動者数		
目標値：	平成 30 年度	0 人	⇒ 平成 35 年度 40 人
事業⑩：プロモーションイベント日本遺産井波展・シンポジウムの開催			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 32 年度
補助金額：	平成30年度：1,500千円	平成31年度：2,000千円	平成32年度：2,000千円
(積算)	開催費一式	開催費一式	開催費一式
事業概要：	【1年目】地元及び周辺地域（富山県内・金沢等）でプロモーションイベントを2回程度開催。 【2年目】プロモーションイベントの巡回展を首都圏（東京・横浜・川崎等）を中心に開催。 【3年目】プロモーションイベントの巡回展を大都市圏（大阪・名古屋等）で開催。また、在日大使館や留学生にインバウンド向けのプロモーションイベントとシンポジウムを開催。		
評価指標区分：	日本遺産の認知度		(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標：	来場者アンケートの日本遺産井波を認知できた割合の増加率		
目標値：	平成 30 年度	100 %	⇒ 平成 35 年度 160 %
事業⑪：日本遺産井波未来継承講座の開催			
	普及啓発	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 32 年度
補助金額：	平成30年度：500千円	平成31年度：500千円	平成32年度：500千円
(積算)	開催費一式	開催費一式	開催費一式
事業概要：	井波彫刻師等を講師に迎え、小中学生や若者、女性をはじめ地域住民等を対象にした、日本遺産井波未来継承講座を開催。井波彫刻や地域資源の価値や重要性の理解度を高め、地域に対する誇りの醸成に繋げる。受講修了者には「井波日本遺産サポーター」（仮称）認定証を発行する等、日本遺産井波を未来に繋げる仕組みを構築する。		
評価指標区分：	日本遺産の認知度		(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標：	「井波日本遺産サポーター」（仮称）認定証の累計発行数		
目標値：	平成 30 年度	100 人	⇒ 平成 35 年度 2,000 人
事業⑫：中学生による「井波のまち」の魅力発信講座の開催			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 32 年度
補助金額：	平成30年度：400千円	平成31年度：400千円	平成32年度：400千円
(積算)	開催費一式	開催費一式	開催費一式
事業概要：	日本遺産井波未来継承講座を受講した井波中学生等が講師となり、父兄や地域住民を対象に井波の魅力を発信するワークショップや発表会を開催する。大人の視点では気づけない新たな井波の魅力の発掘が期待でき、子供も大人も日本遺産の理解、地域への愛着や誇りを深める事業とする。		
評価指標区分：	日本遺産の認知度		(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標：	講座受講者にアンケート調査を実施し、日本遺産井波への理解の深化を調査する。		
目標値：	平成 30 年度	100 %	⇒ 平成 35 年度 160 %

事業⑬：日本遺産井波まちめぐり観光コースの造成						
事業区分：	普及啓発		事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 31 年度		
補助金額：	平成30年度：	800千円	平成31年度：	1,500千円	平成32年度：	0千円
(積算)	調査制作費一式		ツアー実施費			
事業概要：	【1年目】日本遺産井波の魅力を満喫できる、まち巡り観光コースを造成する。 【2年目】1年目に造成した観光コースにて、旅行代理店やエージェント、留学生等を対象にモニターツアーを実施し、観光コースの改良、より魅力ある商品の造成に繋げる。					
評価指標区分：	日本遺産に関する旅行商品数			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	まちめぐり観光コース数					
目標値：	平成 30 年度	2 コース ⇒		平成 35 年度	10 コース	
事業⑭：南砺市世界遺産・ユネスコ無形文化遺産・日本遺産トライアングル構想の実施						
事業区分：	普及啓発		事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 32 年度		
補助金額：	平成30年度：	1,000千円	平成31年度：	1,000千円	平成32年度：	500千円
(積算)	開発費一式		ツアー実施費		制作費一式	
事業概要：	市内の遺産3箇所を結ぶ周遊型観光と滞在型観光を併せ持つ魅力ある観光商品を開発する。 【1年目】観光トライアングルコースの開発する。 【2年目】1年目に準備をした観光商品を、旅行代理店やエージェント、留学生等を対象にモニターツアーを実施、より良い観光商品にブラッシュアップする。 【3年目】トライアングルコースを完成させ、観光商品として売り出していく。					
評価指標区分：	日本遺産に関する旅行商品数			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	開発した旅行商品の数					
目標値：	平成 30 年度	1 コース ⇒		平成 35 年度	6 コース	
事業⑮：日本遺産井波ゆかりの食メニューの開発と普及						
事業区分：	普及啓発		事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 32 年度		
補助金額：	平成30年度：	500千円	平成31年度：	500千円	平成32年度：	500千円
(積算)	開発費一式		開発費一式		普及費一式	
事業概要：	1,2年目において、日本遺産井波にゆかりの料理や食材を基に、新たな魅力ある食メニューを開発する。レシピは地域の財産として共有し普及を図る。 3年目は2カ年かけて磨きをかけた食メニューを魅力ある商品として活用し、首都圏など広く外部に向けての普及活動を実施する。					
評価指標区分：	日本遺産に関する商品開発数			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	開発した食メニューの数					
目標値：	平成 30 年度	1 品 ⇒		平成 35 年度	6 品	
事業⑯：グッズ等の観光土産品の開発						
事業区分：	普及啓発		事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 32 年度		
補助金額：	平成30年度：	500千円	平成31年度：	500千円	平成32年度：	500千円
(積算)	制作費用一式		制作費用一式		制作費用一式	
事業概要：	3カ年継続し、主に観光客向けのグッズ等土産商品を開発する。開発した商品の権利は協議会の帰属とし、事業者等が制作し販売する場合は、制作・販売権の契約やロイヤリティー契約を締結するなど、収入を得ることとする。					
評価指標区分：	日本遺産に関する商品開発数			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	開発したグッズ等の観光土産商品の数					
目標値：	平成 30 年度	1 品 ⇒		平成 35 年度	6 品	

事業⑰：		ニーズ調査（ターゲット調査を含む）					
事業区分：		調査研究		事業期間：		平成 30 年度 ～ 平成 32 年度	
補助金額：		平成30年度： 1,500千円		平成31年度： 1,500千円		平成32年度： 1,500千円	
(積算)		費用一式		費用一式		費用一式	
事業概要：		【1年目】国内観光専門家を対象としたニーズ調査（ターゲット調査を含む）の実施 【2年目】国内観光客を対象としたニーズ調査（ターゲット調査を含む）の実施 【3年目】インバウンドに関するニーズ調査（ターゲット調査を含む）の実施					
評価指標区分：		調査対象文化財への観光客数				(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：		井波への国内外観光客入込み数					
目標値：		平成 29 年度 194 千人		⇒ 平成 35 年度		255 千人	
事業⑱：		日本遺産井波ビジターセンター（仮称）の整備					
事業区分：		公開活用のための整備		事業期間：		平成 30 年度 ～ 平成 30 年度	
補助金額：		平成30年度： 3,500千円		平成31年度：		平成32年度：	
(積算)		改修整備費用一式					
事業概要：		八日町通りの入り口にある観光案内所を改修し、日本遺産井波のビジターセンターとして整備する。					
評価指標区分：		観光客の満足度				(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：		アンケート調査により観光客の満足度を量る。					
目標値：		平成 30 年度 40 %		⇒ 平成 35 年度		60 %	
事業⑲：		日本遺産登録ブランディング制作・設置					
事業区分：		公開活用のための整備		事業期間：		平成 30 年度 ～ 平成 31 年度	
補助金額：		平成30年度： 4,500千円		平成31年度： 1,500千円		平成32年度： 0千円	
(積算)		整備費用一式		整備費用一式			
事業概要：		道の駅いなみ、瑞泉寺、斎賀家、旧井波駅舎にインフォメーションを整備する。あわせて各箇所に多言語音声翻訳機（日・英・仏・中国・韓国語）を設置する。 【1年目】道の駅いなみ、斎賀家住宅、瑞泉寺の3ヶ所に整備・設置。 【2年目】旧井波駅舎に整備・設置。					
評価指標区分：		観光客の満足度				(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：		アンケート調査により観光客の満足度を量る。					
目標値：		平成 30 年度 40 %		⇒ 平成 35 年度		60 %	
事業⑳：		日本遺産登録ブランディング制作・設置					
事業区分：		公開活用のための整備		事業期間：		平成 30 年度 ～ 平成 31 年度	
補助金額：		平成30年度： 2,000千円		平成31年度： 2,000千円		平成32年度： 0千円	
(積算)		制作費用一式		制作費用一式			
事業概要：		2カ年で日本遺産井波のシンボルマークやロゴマークの入った看板を木彫刻で作成し、各構成文化財やビジターセンターなど主要施設に配置する。					
評価指標区分：		その他				(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：		井波日本遺産シンボルマーク・ロゴマーク・キャッチコピーの使用数。					
目標値：		平成 30 年度 100 %		⇒ 平成 35 年度		200 %	

事業⑳：		多言語メガホンヤク（観光と緊急時対応）の配置					
事業区分：		公開活用のための整備		事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 31 年度		
補助金額：		平成30年度：	900千円	平成31年度：	600千円	平成32年度：	0千円
（積算）		購入費用一式		購入費用一式			
事業概要：		観光案内及び災害など緊急時の迅速な対応のため、多言語メガホンヤクを配置する。 【1年目】多くの観光客が集まる施設・場所6ヶ所に各1台ずつ置く。 【2年目】多くの観光客が集まる施設・場所4ヶ所に各1台ずつ置く。					
評価指標区分：		観光客の満足度				（具体的な指標は次のとおり）	
具体的な指標：		アンケート調査により観光客の満足度を量る。					
目標値：		平成 30 年度		40 %	⇒	平成 35 年度 60 %	
事業㉑：		まち歩き案内サイン・説明サインの配置					
事業区分：		公開活用のための整備		事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 31 年度		
補助金額：		平成30年度：	3,000千円	平成31年度：	3,000千円	平成32年度：	0千円
（積算）		制作費用一式		制作費用一式			
事業概要：		日本遺産井波の町歩き楽しむ観光客の利便性や快適性、満足度の向上のため、まち歩き案内サインや説明サインを整備する。（多言語対応はQRコード利用） 【1年目】ビシターセンター、道の駅に制作設置する。 【2年目】瑞泉寺、斎賀家住宅、旧井波駅舎に制作設置する。					
評価指標区分：		観光客の満足度				（具体的な指標は次のとおり）	
具体的な指標：		アンケート調査により観光客の満足度を量る。					
目標値：		平成 30 年度		40 %	⇒	平成 35 年度 60 %	
事業㉒：		GPS機能付き電動アシスト自転車を活用する為のシステムとステーション機能を構築					
事業区分：		公開活用のための整備		事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 30 年度		
補助金額：		平成30年度：	3,000千円	平成31年度：	0千円	平成32年度：	0千円
（積算）		費用一式					
事業概要：		観光客の利便性と周遊性を図る為に、ビジターセンターと道の駅にステーションを整備する。他事業で導入予定のGPS機能付き電動アシスト自転車20台を活用した、調査システムとステーション機能を構築する。					
評価指標区分：		その他				（具体的な指標は次のとおり）	
具体的な指標：		利用客数					
目標値：		平成 30 年度		5,000 人	⇒	平成 35 年度 15,000 人	

（７）その他事業

事業①：	伝統文化親子教室事業		
機関・団体：	文化庁	：	事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 30 年度
事業概要：	構成文化財である木遣り踊りの保存と伝承を目的とする親子教室活動へ支援を行う。		
事業②：	城端神明宮祭の曳山行事の曳山民俗文化財伝承・活用等事業		
機関・団体：	文化庁	：	事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要：	構成文化財である曳山の保存修理および公開活用に資する事業に対して支援を行う。		
事業③：	越中五箇山相倉集落歴史生き生き！史跡等総合活用整備事業		
機関・団体：	文化庁	：	事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要：	構成文化財である相倉集落の建造物等の保存修理および公開活用に資する事業を行う。		
事業④：	小規模事業者地域力活用新事業全国展開支援事業		
機関・団体：	文化庁以外の省庁	： 経済産業省	事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 30 年度
事業概要：	井波の地域資源を活かした観光メニューの造成、特産品開発、旅行会社と協働した観光客を増やす取組みを実施する。		
事業⑤：	地域おこし協力隊事業		
機関・団体：	文化庁以外の省庁	： 総務省	事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 32 年度
事業概要：	隊員1名（井波まちなか担当）と、地域住民、行政機関、各種団体と力を合せ、地域の活性化に取り組む。		
事業⑥：	井波別院瑞泉寺など市指定文化財の所有者等が行う、指定文化財の保存や管理に要する経費に対して支援を行う。		
機関・団体：	市町村	： 南砺市	事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要：	井波彫刻など伝統工芸産業の持続・発展のため、新商品の開発、販路拡大に向けたイベント事業等に対して支援を行う。木彫刻職業訓練校補助金、全国木彫刻コンクール開催事業補助金など		
事業⑦：	伝統的工芸産業振興事業		
機関・団体：	市町村	： 南砺市	事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要：	井波彫刻など伝統工芸産業の持続・発展のため、新商品の開発、販路拡大に向けたイベント事業等に対して支援を行う。木彫刻職業訓練校補助金、全国木彫刻コンクール開催事業補助金など		
事業⑧：	伝統的工芸品後継者育成支援事業		
機関・団体：	市町村	： 南砺市	事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 31 年度
事業概要：	井波彫刻など国指定伝統的工芸品の伝承のため、後継者を育成する親方や雇用者に対して支援を行う。		
事業⑨：	市民大学講座事業		
機関・団体：	市町村	： 南砺市	事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要：	いなみ木彫り講座など、専門的な知識を持った講師による講座を開講し、市民の学びたい心を応援する。		
事業⑩：	ふるさと教育推進事業		
機関・団体：	市町村	： 南砺市	事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要：	児童生徒が行う、井波彫刻などふるさとの自然や歴史、文化を素材として行う学習への支援。		
事業⑪：	広域連携による観光振興に向けた事業		
機関・団体：	市町村	： 南砺市	事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要：	とやま観光推進機構、富山県西部地区観光協議会、北陸・飛騨・信州 3 つ星街道観光協議会、2020年東京オリンピック・パラリンピックを活用した地域活性化推進首長連合など		

事業⑫：	イベント開催補助金事業		
機関・団体：	市町村	：	南砺市
	事業期間：	平成 31 年度	～ 平成 35 年度
事業概要：	歴史と伝統のある祭り、魅力ある地域資源を活かしたイベントの開催に対して支援を行う。いなみ太子伝観光祭、まちなみアートinいなみ、いなみ国際木彫刻キャンプなど		
事業⑬：	観光客受入環境整備事業		
機関・団体：	市町村	：	南砺市
	事業期間：	平成 30 年度	～ 平成 30 年度
事業概要：	市内観光施設等の無線通信環境、多言語表記などの外国人観光客の受入環境整備に対する支援。		
事業⑭：	景観づくり住民協定等推進事業		
機関・団体：	市町村	：	南砺市
	事業期間：	平成 30 年度	～ 平成 35 年度
事業概要：	景観づくり住民協定に基づき住民が行う修景事業に対して支援を行う。構成文化財である八日町通り、本町通り等で実施。		
事業⑮：	井波彫刻企画展事業		
機関・団体：	民間団体	：	井波彫刻協同組合
	事業期間：	平成 30 年度	～ 平成 35 年度
事業概要：	井波彫刻総合会館にて、年間を通して様々な企画展を実施する。		
事業⑯：	井波彫刻体験事業 木彫り手習い塾		
機関・団体：			
事業概要：	井波彫刻を代表する作家の手ほどきを受け、パネルや置物など木彫体験ができる。		
事業⑰：	国登録有形文化財「斎賀家住宅」活用プロジェクト		
機関・団体：	民間団体	：	彌右衛門屋プロジェクト
	事業期間：	平成 30 年度	～ 平成 30 年度
事業概要：	構成文化財である斎賀家の公開活用に資する事業を実施する。企画展示、催し物など		
事業⑱：	クラウドファンディング活用事業		
機関・団体：	自主事業	：	協議会
	事業期間：	平成 30 年度	～ 平成 35 年度
事業概要：	クラウドファンディングを活用し、井波彫刻への支援や、まちなかのストリートファニチャーの整備、イベント等の開催に必要な資金の調達を目指す。		
事業⑲：	井波「千年の櫨の森」事業		
機関・団体：	自主事業	：	協議会
	事業期間：	平成 30 年度	～ 平成 35 年度
事業概要：	彫刻の材料となるケヤキの保全・植樹事業を行い、循環型・共生型のまちづくりを推進する。民間企業への支援の働きかけ、井波ケヤキの森基金の創設を目指す。		
事業⑳：	井波サポーター制度事業		
機関・団体：	自主事業	：	協議会
	事業期間：	平成 30 年度	～ 平成 35 年度
事業概要：	井波サポーター制度を創設し、国内外から登録者を募り、地域の活性化に支援をいただくほか、地域住民との交流を図る。		